

二〇二五年度 大東文化大学大学院文学研究科日本文学専攻前期課程 入学試験問題
(一般方式)

受験番号「 _____ 」 氏名「 _____ 」

受験者は、配点の基準を選択することができます。

A 40点 40点 20点

下記のA・B・Cの内から一つを選び、その記号を

B 60点 20点 20点

○で囲みなさい。

C 20点 60点 20点

Ⅰ 古典文学

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

* 良岑の宗貞の少将、物へ行く道に、五条わたりにて雨いたう降りければ、荒れたる門に立ちかくれて見入るれば、五間ばかりなる*檜皮屋の下に*土屋倉などあれど、こゝに人などもみえず。歩み入りて見れば、階の間に梅いとおかしう咲きたり。鶯も鳴く。人ありとも見えぬ御簾のうちより、薄色の衣、濃き衣うへに着て、丈だちいとよきほどなる人の、髪、丈ばかりならんと見ゆるが、

よもぎ生ひて荒れたる宿を①鶯のひとくと鳴くや誰とか待たんとひとりごつ。少将、

来たれども言ひしなれねば鶯の君に告げよと教へてぞなくと声をかしくて言へば、女驚きて、人もなしと思ひつるに、ものしきさまを見えぬることと思ひて、物も言はずなりぬ。男、縁にのぼりて居ぬ。「②などが物のたまはぬ。雨のわりなく侍りつれば、やむまではかくてなむ」と言へば、「大路よりは漏りまさりてなむ、ここは中々」といらへけり。時は、正月十日のほどなりけり。簾のうちよりしとねさしいでたり。引き寄せて居ぬ。簾もへりは蝙蝠にくはれてところどころなし。内のしつらひ見入るれば、昔おぼえて畳などよかりけれど、口惜しくなりにけり。日もやうやう暮れぬれば、やをらすべり入りて、この人を奥にもいれず。女くやしと思へど、制すべきやうもなくて、いふかひなし。雨は夜一夜降り明かして、またのつとめてぞすこし空晴れたる。男は女の入らむとするを「ただかくて」として入れず。日も高うなればこの女の親、少将にあるじすべきかたのなかりければ、小舎人童ばかりとどめたりけるに、堅い塩さかなにして酒をのませて、少将には、広き庭に生いたる菜を摘みて、蒸し物といふものにして茶碗に盛りて、はしには梅の花のさかりなるを折りて、その花びらにいとをかしげなる女の手にて書けり。

君がため衣の裾をぬらしつつ春の野に出でてつめる若菜ぞ男これをみるにいとあはれに覚えて、引き寄せて食ふ。女わりなう恥づかしとおもひて臥したり。少将起きて、小舎人童を走らせて、すなはち車にてまめなるものさまさまに持て来たり。迎へに人あれば、「今またも参り来む」として出でぬ。それより後、たえずみづからもとぶらひけり。よろづの物食へども、なほ③五条にてありし物はめづらしうめでたかりきと思ひ出でける。

(『大和物語』より)

注* 良岑の宗貞十六歌仙の一人、僧正遍昭の俗名。

* 檜皮屋の下―檜皮屋の裏手。檜皮屋は檜の皮で屋根を葺いた家。

* 土屋倉―土蔵。

問一 傍線①「鶯のひとくと鳴くや」について、次の各問に答えなさい。

- 1 「ひとくと」は鶯の鳴き声を表す擬声語とある言葉との掛詞になっている。その掛けられている言葉を漢字二字で答えなさい。

- 2 1で答えた掛詞を活かして、①を現代語訳しなさい。

問二 傍線②「などか物のたまはぬ。雨のわりなく侍りつれば、やむまではかくてなむ」を、「なむ」の後に省略されている語も補って、現代語訳しなさい。

問三 傍線③「五条にてありし物はめづらしうめでたかりき」とあるが、何がどうだったと言っているのか、説明しなさい。

問四 良岑宗貞が偶然訪れた「女」の暮らしぶりほどのようなものであったか、文中に書かれている具体的な様子に言及して、説明しなさい。

2 近現代文学

次の A ～ C は、ある作品の一部である。それを読んで、後の問に答えなさい。

A

この部分に掲載されている文章については、著作権法上の問題から掲載から掲載することができません。ご了承ください。

B

従四位下左近衛少将兼越中守細川忠利は、寛永十八年辛巳の春、余所よりは早く咲く領地肥後国の花を見棄てて、五十四万石の大名の晴々しい行列に前後を囲ませ、南より北へ

歩みを運ぶ春と俱に、江戸を志して参勤の途に上らうとしてゐるうち、図らず病に罹つて、
 典医の方劑も功を奏せず、日に増し重くなるばかりなので、江戸へは出発日延べの飛脚が
 立つ。徳川將軍は名君の誉れの高い三代目の家光で、島原一揆の時賊將天草四郎時貞を討
 ち取つて大功を立てた忠利の身の上を氣遣ひ、三月二十日には松平伊豆守、阿部豊後守、
 阿部対馬守の連名の沙汰書を作らせ、針医以策と云ふものを、京都から下向させる。続い
 て二十二日には同じく執政三人の署名した沙汰書を持たせて、曾我又左衛門と云ふ侍を上
 使に遣す。大名に対する將軍家の取扱としては、鄭重を極めたものであつた。島原征伐が
 此年から三年前寛永十五年の春平定してから後、江戸の邸に添地を賜はつたり、鷹狩の鶴
 を下されたり、不斷慰撫を尽してゐた將軍家のことであるから、此度の大病を聞いて、先
 例の許す限の慰問をさせたのも尤もである。

將軍家がかう云ふ手続きをする前に、熊本花畑の館では忠利の病が革かになつて、と
 う／＼三月十七日申の刻に五十六歳で亡くなつた。奥方は小笠原兵部大輔秀政の娘を將軍
 が養女にして妻せた人で、今年四十五歳になつてゐる。名をお千の方と云ふ。嫡子六丸
 は六年前に元服して將軍家から光の字を賜はり、光貞と名告つて、従四位下侍従兼肥後守
 にせられてゐる。今年十七歳である。江戸参勤中で遠江国浜松まで帰つたが、訃言を聞い
 て引き返した。光貞は後名を光尚と改めた。二男鶴千代は小さい時から立田山の養勝寺に
 遣つてゐる。京都妙心寺出身の大淵和尚の弟子になつて宗玄と云つてゐる。三男松之助は
 細川家に旧縁のある長岡氏に養はれてゐる。四男勝千代は家臣南条大膳の養子になつてゐ
 る。女子は二人ある。長女藤姫は松平周防守忠弘の奥方になつてゐる。二女竹姫は後に有
 吉頼母英長の妻になる人である。弟には忠利が三齋の三男に生まれたので、四男中務大輔
 立孝、五男刑部興孝、六男長岡式部寄之の三人がある。妹には稲葉一通に嫁した多羅姫、
 鳥丸中納言光賢に嫁した万姫がある。此万姫の腹に生まれた彌々姫が忠利の嫡子光尚の奥
 方になつて来るのである。目上には長岡氏を名告る兄が二人、前野長岡画家に嫁した姉が
 二人ある。隠居三齋宗立もまだ存命で、七十九歳になつてゐる。此中には嫡子光貞のやう
 に江戸にゐたり、又京都、其外遠國にゐる人達もあるが、それが後に知らせを受けて歎い
 たのと違つて、熊本の館にゐた限の人達の歎きは、分けて痛切なものであつた。江戸への
 注進には六島少吉、津田六左衛門の二人が立つた。

三月二十四日には初七日の嘗みがあつた。四月二十八日にはそれまで館の居間の床板を
 引き放つて、土中に置いてあつた棺を昇き上げて、江戸からの指図に依つて、鮑田郡春日
 村岫雲院で遺骸を荼毘にして、高麗門の外の山に葬つた。此靈屋の下に、翌年の冬になつ

この部分に掲載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができません
ご了承願います。

C

て、護国山妙解寺が建立せられて、江戸品川東海寺から沢庵和尚の同門の啓室和尚が来て住持になり、それが寺内の臨流庵に隠居してから、忠利の二男で出家してゐた宗玄が、天岸和尚と号して跡統あとむねになるのである。忠利の法号は妙解院殿台雲宗伍大居士と附けられた。

この部分に掲載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができません。ご了承ください。

一 A～Cのそれぞれの作者名と作品名（ただしAは歌集名）を記しなさい。

	作者名	作品名
A		
B		
C		

二 A～Cのそれぞれについて、文体や手法（視点や語りなど）の特徴・性格を説明しなさい。文学史的意義に関する説明でも構いません。

3 文学史

次の日本文学史上の用語 (ア) ～ (エ) について簡潔に説明しなさい。

(ア) 『小倉百人一首』

(イ) 『平家物語』

(ウ) 国木田独步

(エ) プロレタリア文学